

令和元年度
第2回全体研究会
資料



令和元年 12月 25日
岩手県立前沢明峰支援学校
実践研究部

目次

全体研究	P.	1~	11
小学部	P.	12~	20
中学部	P.	21~	25
高等部	P.	26~	31
寄宿舍	P.	32~	36

1 テーマ

児童生徒がより主体的に学ぶ姿を目指して～新学習指導要領実施に向けた授業の見直し～

2 テーマ設定の理由

本校では平成22～24年度は「児童生徒の一人一人の生きがいのある豊かな生活を目指して～学年、学部、社会をつなぐとりくみ～」、25～27年度「児童生徒一人一人の今と将来の豊かな生活を目指して～」、28～29年度「一人ひとりの主体性を育むより良い支援を目指して～タブレット端末の活用をとおして」というテーマで校内研究に取り組んできた。その中で、キャリア教育の考え方や、学部間、保護者、外部機関との連携の取り組み方、また授業におけるICT機器の活用の仕方について理解を深めてきた。昨年度の研究のまとめにあたっては、授業力を高めることこそがより良い指導支援を行うための基本となるということを確認できた。

さらに、学習指導要領が改訂され、小学部は平成32年度から、中学部は33年度から全面实施となり、高等部も34年度から年次進行で実施となる。改定の内容を理解し、日頃の教育活動に反映していくことも求められる。

【主体性・主体的】ということばが日常的に使われ、新学習指導要領にも継続的に取り上げられている一方、児童生徒のどのような姿が主体的な姿なのかということに関しては見方も様々で、曖昧なままになっていると思われる。授業を考える過程で主体性のとらえ方や、主体的な姿に迫るため授業の工夫について突き詰め、共通した意識をもつことで児童生徒の主体的な姿を育成するためのより具体的なイメージに繋がっていくと考えられる。

上記を踏まえ、これまでの研究の成果や新学習指導要領の内容を考慮し、児童生徒の主体性について突き詰めて考えた授業改善に取り組むことで、児童生徒の主体的な学びをさらに促すための授業につながると考え、このテーマを設定した。

3 研究の目的

児童生徒の主体的な学びの姿を明確にした授業改善に取り組み、児童生徒がより主体的に学ぶことができる授業を目指す。

4 研究仮説

児童生徒の主体的な学びの姿を明確にし、目標・手立て・評価を意識した授業改善に取り組むことで、これまで以上に児童生徒が主体性を発揮する授業実践ができるであろう。

5 これまでの研究について

(1) 平成30年度（1年次）

ア 成果

(ア) 本校の児童生徒の主体的な学びの姿についてまとめ、共有できた（以下3点）

○個々のもつ力を発揮して、自ら考え・選び・判断しながら学ぶ姿

○活動内容や自分の役割を分かり、見通しをもって学ぶ姿

○興味関心ややりがいをもって、意欲的に学ぶ姿

(イ) 各学部一回ずつの授業研究会における協議をとおした主体的な学びを考えるきっかけ作りができた

(ウ) 研修をとおして新学習指導要領の理解の促進を図った。

イ 課題

(ア) 授業研究と主体的な学びをめざす取り組みや、新学習指導要領の内容を授業に反映させる取り組みとの関連が希薄だった

(イ) 授業研究会の協議の内容の共有の仕方やその質、実践交流会の内容に改善が必要だった。

(ウ) 目標・手立て・評価を明確にした研究、および授業実践に取り組む必要がある（実践交

流会における助言から)

6 今年度の研究推進について

2年次である平成31(令和元)年度の研究は、1年次の研究の成果と課題を踏まえ、全校で共有できた児童生徒が主体的に学ぶ姿を意識した授業改善、目標・手立て・評価を具体化した各教科等を合わせた指導の授業づくりに取り組んでいく。併せて新学習指導要領の理解とそれに沿った授業づくりに取り組み、理解を深めていく。

(1) 内容及び方法 ※【取り組む場面】

ア 授業研究の推進

(ア) 主体的な学びの姿を目指した授業改善

- ・本校における児童生徒が主体的に学ぶ姿の共有【全体研究会・情報誌】
- ・児童生徒個々の主体的な学びの姿の共通理解、評価【学部研究・授業研究会】
- ・PDCAサイクルを活用した授業改善【学部研究/研究部、全職員】

(イ) 目標・手立て・評価を明確にした授業づくり

- ・授業づくりシート(指導案、単元計画、記録シート)の様式の検討【全体研究会・学部研究】
- ・授業づくりシートを活用した授業づくり【学部研究・授業研究会】

イ 授業改善の方法および授業内容の共有、協議

(ア) 授業研究会の開催(7月、9月、10月)

- ・各学部1回ずつの授業提案【学部研究・授業研究会】
- ・小グループでの協議と協議内容のまとめ【授業研究会】

(イ) 実践交流会の開催(12月26日)

- ・各学部の実践に基づく協議【学部研究・実践交流会】
- ・全体研究及び各学部の研究の中間報告【学部研究、第2回全体研究会】
- ・助言者による助言【第2回全体研究会】

ウ 新学習指導要領の内容の理解の促進と授業づくり

(ア) 新学習指導要領を反映した授業づくり

- ・各教科等を合わせた指導と、各教科等との関連を示した様式の作成、活用【各学部の研究、授業研究会】

(イ) 講演会の開催

- ・講演会の企画、運営【高教研講演会】

(ウ) 情報誌の発行

- ・各種情報、コラム、クイズ等の掲載【通年】

※寄宿舎については、授業実践を生活指導の実践に置き換えて進める。授業づくりシートは可能であれば活用する。

(2) 成果と課題

ア 成果

(ア) 授業研究の推進

a 主体的な学びの姿を目指した授業改善について

- ・昨年度まとめた本校における児童生徒が主体的に学ぶ姿について、ほとんどの職員が意識して授業の目標設定ができたと感じている。(全体研究資料1)
- ・授業づくりシートを活用したことで、授業における児童生徒が主体的に学ぶ姿を目標にした授業づくり、手立ての検討ができた。その結果、授業に入る教師が児童生徒の目指す主体的に学ぶ姿を共通理解して授業づくりをできたと考える。(全体研究資料1)

- b 目標・手立て・評価を明確にした授業づくりについて
 - ・全体研究として提案した授業づくりシートをもとに、学部で様式の検討、改善を行い、より活用しやすい形にする取り組みが進んでいる。
 - ・授業づくりシートを活用して授業作りおよび改善を行ったことで、前時の評価を活かした授業改善を行うことができた。(全体研究資料1)

(イ) 授業改善の方法および授業内容の共有、協議

授業研究会について

- ・アンケート結果から、回を重ねるごとに議論が活発になり、成果と課題、及び改善策に迫る研究会になっていったと言える。(全体研究資料2)
- ・学部ごと授業の内容は異なっていたが、授業研究会の議論の内容から、児童生徒が主体的に学ぶための観点として、以下のような共通した内容がいくつか見られた。(全体研究資料3)
 - 児童生徒の実態把握について
 - 教材教具について
 - 児童生徒の主体的な学びを引き出す観点について
- ・児童生徒の主体性について、授業の内容は異なるがキーワードとなり得る以下のような観点が共通して見られた。(全体研究資料3)
 - 自分で(自ら) ○分かる(習熟している、理解している、わかりやすい)
 - 考える(考えさせる) ○選ぶ、決める(自己選択)
 - 見通し ○楽しさ、充実感、期待感、意欲 など

(ウ) 第2回全体研究会の開催について

- ・本日実施。

(エ) 新学習指導要領の内容の理解の促進と授業づくり

a 新学習指導要領を反映した授業づくり

- ・授業づくりシートの中に各教科等との関連を示すため、関連する教科名を記入する欄を設けた。各教科等を合わせた指導に含まれる各教科等の内容を確認した上で授業作りをしたり、参観したりする機会ができた。

b 講演会の開催

- ・実践に即した内容での講演だったことで、実際の場面をイメージして新学習指導要領の理解を深める場を提供できた。
- ・参加者からのアンケートでは概ね好評を博していた。

イ 課題

(ア) 授業研究の推進

a 主体的な学びの姿を目指した授業改善について

- ・本校における児童生徒が主体的に学ぶ姿の共有に関して、年度当初に示すのみになっている。
- ・授業提案や各学部研究で割り当てられた期間のみの取り組みとなり、年間を通した授業改善の取り組みには繋がっていないところがある。

b 目標・手立て・評価を明確にした授業づくりについて

- ・今年度提案した授業づくりシートの様式は学部ごと工夫したが、より良い様式について議論がすすんでいない。活用しやすい様式にする等改善の余地がある。

(イ) 授業改善の方法および授業内容の共有、協議

授業研究会について

- 何らかの方法で授業を参観できたという職員の割合は 8 割程度であり、撮影したビデオの上映会、画像フォルダへの保存などの対策を取ったことの成果はあった。しかし、参観時間は 10 から 20 分間という回答が半数以上に登る。(全体研究資料 2)

(ウ) 第 2 回全体研究会の開催について

- 本日実施。

(エ) 新学習指導要領の理解の促進と授業づくり

- 評価の 3 観点（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学習に向かう姿勢・人間性）について、目標の設定や評価の仕方について理解を深めていく必要がある。
- 各教科等を合わせた指導における各教科等との関わりについて、具体的に示すための取り組みに課題がある。単元計画シートに教科名を記載する欄を設けた（高等部のシートには記載無し）が、具体的にどのような力がつくのか（ついたのか）まで深めることができていない。

R 1 校内研究についてのアンケート集計結果

○提出率 84%

○各設問への回答率

1 今年度取り組んだ単元計画シート等の様式について

(1) 様式を使って授業づくりをしましたか？どれか1つに丸を付けてください。

ア T1として取り組んだ 14%	イ T1ではないが記入はした 25%	ウ 記入はしていない 59%
---------------------	-----------------------	-------------------

(2) (1) でア、イとお応えになった方にお聞きます。

シートを活用したことで、

①児童生徒が主体的に学ぶ姿を明確にした目標設定、授業づくりができたと思いますか？

1 そう思わない 0%	2 あまりそう思わない 0%	3 だいたいそう思う 73%	4 そう思う 27%
----------------	-------------------	-------------------	---------------

②目標に沿った手立ての検討に繋がりましたか？

1 そう思わない 0%	2 あまりそう思わない 8%	3 だいたいそう思う 54%	4 そう思う 38%
----------------	-------------------	-------------------	---------------

③評価を受けて次時や、別の単元に活かすことができましたか？

1 そう思わない 0%	2 あまりそう思わない 4%	3 だいたいそう思う 69%	4 そう思う 27%
----------------	-------------------	-------------------	---------------

(3) シートを活用して授業づくりや授業参観、研究会を行うことについてお聞きます。

シートを活用して授業づくりや、授業参観、研究会をすることが、

①主体的な学びの姿を明確にする役割を果たしたと感じますか？

1 そう思わない 0%	2 あまりそう思わない 2%	3 だいたいそう思う 73%	4 そう思う 25%
----------------	-------------------	-------------------	---------------

②普段の授業を振り返ったり、授業改善をしたりすることに繋がったと感じますか？

1 そう思わない 0%	2 あまりそう思わない 3%	3 だいたいそう思う 57%	4 そう思う 40%
----------------	-------------------	-------------------	---------------

2 本校における、児童生徒が主体的に学ぶ姿（以下3つ）についてお聞きします。

○個々のもつ力を発揮して、自ら考え、選び、判断しながら学ぶ姿

○活動内容や自分の役割を分かり、見通しをもって学ぶ姿

○興味関心ややりがいをもって、意欲的に学ぶ姿

(1) 上記の姿を意識して授業づくり、目標設定をしましたか？

1 そう思わない 0%	2 あまりそう思わない 0%	3 だいたいそう思う 69%	4 そう思う 31%
----------------	-------------------	-------------------	---------------

(2) 上記の姿は今年度の授業づくりや研究会で検討、協議をした児童生徒の主体的な姿に当てはまっていると思いますか？

1 そう思わない 0%	2 あまりそう思わない 3%	3 だいたいそう思う 73%	4 そう思う 24%
----------------	-------------------	-------------------	---------------

3 新学習指導要領の理解の促進について

(1) 今年度の取り組み（校内研究、高教研講演会）を通して、新学習指導要領の理解が深まったと感じますか？

1 そう思わない 0%	2 あまりそう思わない 10%	3 だいたいそう思う 78%	4 そう思う 13%
----------------	--------------------	-------------------	---------------

(2) 単元計画シートに関わる教科を記載（高等部は計画段階での記載は無し）しましたが、合わせた指導と各教科等との関わりを意識して授業づくりや参観ができましたか？

1 そう思わない 2%	2 あまりそう思わない 21%	3 だいたいそう思う 68%	4 そう思う 10%
----------------	--------------------	-------------------	---------------

3 今年度の校内研究の感想、ご意見、今後の取り組みについての要望など、ありましたら自由にお書きください。

※割愛

授業研究会 アンケート集計結果

令和元年 12 月 4 日現在

I 基礎データ

1 参加者数等

	参加者数	グループ数	アンケート回収数	アンケート回収率
第1回 (中)	57名	8グループ	52部	91.4%
第2回 (高)	60名	8グループ	49部	81.6%
第3回 (小)	41名	6グループ	38部	92.6%

2 参加者の授業視聴の方法 (第2回, 第3回)

	(1) 直接参観	(2) ビデオ	(3) SV データ	(4) 視聴せず
第2回 (高) N : 49	20名 (40.8%)	10名 (20.4%)	13名 (26.5%)	6名 (12.2%)
第3回 (小) N : 37	15名 (40.5%)	3名 (8.1%)	11名 (29.7%)	7名 (18.9%)

3 参加者の授業参観時間 (第2回, 第3回)

	0分	10分未満	10~20分	21分以上	全部	その他
第2回 (高) N : 49	6名 (8.1%)	2名 (4.1%)	26名 (53.1%)	2名 (4.1%)	10名 (20.4%)	3名 (6.1%)
第3回 (小) N : 37	7名 (18.9%)	4名 (10.8%)	19名 (51.3%)	1名 (2.7%)	6名 (16.2%)	0名 (0%)

※ その他は時間の記載なし等

Ⅱ 授業研究会に関するアンケート結果

1 以下の質問について当てはまる数字を選んで○をつけてください。

(1) 今回の授業研究会において、**活発な話し合いがされていた**と思いますか。

	そう思わない	あまり そう思わない	だいたい そう思う	そう思う	無回答
第1回(中) N:52	1名 (1.9%)	6名 (11.5%)	31名 (59.6%)	14名 (26.9%)	0名 (0%)
第2回(高) N:49	0名 (0%)	2名 (4%)	26名 (53%)	21名 (42.8%)	0名 (0%)
第3回(小) N:38	0名 (0%)	0名 (0%)	14名 (36.8%)	24名 (63.1%)	0名 (0%)

(2) 今回の授業研究会において、**成果と課題及び改善策が明確になっていた**と思いますか。

	そう思わない	あまり そう思わない	だいたい そう思う	そう思う	無回答
第1回(中) N:52	0名 (0%)	8名 (15.3%)	35名 (67.3%)	9名 (17.3%)	0名 (0%)
第2回(高) N:49	0名 (0%)	2名 (4%)	35名 (71.4%)	12名 (24.4%)	0名 (0%)
第3回(小) N:38	0名 (0%)	0名 (0%)	19名 (50%)	19名 (50%)	0名 (0%)

(3) 今回の授業研究会で協議された内容などが、**自身の今後の実践に役立つ**と思いますか。

	そう思わない	あまり そう思わない	だいたい そう思う	そう思う	無回答
第1回(中) N:52	0名 (0%)	2名 (3.8%)	32名 (61.5%)	16名 (30.8%)	2名 (3.8%)
第2回(高) N:49	0名 (0%)	0名 (0%)	22名 (71.4%)	26名 (24.4%)	0名 (0%)
第3回(小) N:38	0名 (0%)	0名 (0%)	17名 (44.7%)	21名 (55.2%)	0名 (0%)

R1 全校授業研究会①ワークシートのまとめ

令和元年7月3日(水) 5校時 中学部1年 生活単元学習「お楽しみ会をしよう」 授業者：石川加奈(T1), 佐藤久美子(T2)

	協議の柱1 生徒の主体的な学びのための目標・手立て・評価について	協議の柱2 自己表現が苦手な生徒への有効な指導の手立てについて	その他
成果	<p>○適切な学習活動, 課題の設定, 明確な活動の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切な内容, 短時間での振り返り⇒導入がうまくいっている 生徒が期待感を持てる学習内容⇒動きが止まっている生徒がいない, 意欲的に活動 すごろくを自分たちで作るという目的が明確で生徒の意欲につながっている 生徒が報告したときのT1の称賛がやる気につながっている <p>○ルールを生徒の意見で決める</p> <ul style="list-style-type: none"> お題を貼る場所が競合した際のルールを生徒の意見を取り入れて決めた 楽しい雰囲気で譲り合えた <p>○教材の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 紙板書で活動の手順が分かりやすく提示されている 顔写真のマグネットがあることで, 主体的に活動していた。 お題のカードを貼る場所が分かりやすい(マスに文字が書いてある, 顔写真の使用) 発表で使う指し棒が生徒のやる気につながっていた <p>○生徒の実態把握が的確</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別の支援が丁寧(マカトンサイン, 発語が難しい生徒への写真の使用) 個に応じた「お題」の書き方(見ながら書く, 選んで書くなど) 指示理解の様子などを個別に確認 <p>○自己選択の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ペンの種類や色, 画用紙の色などを自分で選べる 写真付きの手順表示を見て確認しながら, 自分で進めることができていた <p>○教師の雰囲気作り, 教室内の環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が授業に参加したいと思える楽しい雰囲気がある お楽しみ会の日時や目標が教室に貼ってあることで, いつでも見ることができる。 <p>授業での確認もしやすい。</p> <p>○活動場所・道具の配置の工夫 生徒が活動しやすい動線</p>	<p>○モデリング, 視覚的支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 手本やお題があることで安心して取り組める 発表の仕方の手本がよい 生徒の実態に合わせて複数の選択肢を提示し, 生徒ができる表現で考えを引きだそうとしている <p>○繰り返しの経験 自信へつながっていた</p> <p>○楽しい雰囲気作り</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の表情, しぐさをしっかり見て声がけをしていたのがとても良かった。 <p>○題材設定</p> <ul style="list-style-type: none"> テーブルゲームを取り上げたところが良い。(スマホゲームに走る生徒が多いので) <p>○ルールを守った関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> じゃんけんでは負けたらゆずる 	<p>○T1の語りや表情, T2との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 声掛けの回数が丁度よい 表情がとてもよく, 生徒が集中して取り組んでいた 声質や大きさがとても聞きやすかった 進め方のテンポがよい T2の動きが良かった。生徒がT1に注目することを妨げない動き, 声がけの仕方。 クラスの雰囲気が良 <p>○生徒の意欲</p> <ul style="list-style-type: none"> 「楽しかった」という生徒たちの感想 みんなに確認することで, 自分たちで決めたという意識をもてる <p>○環境設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動によって場が変わることで, メリハリがついた <p>○今後の活動に役立つ</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後, いろいろな会を企画する機会があるので <p>○単元シート</p> <ul style="list-style-type: none"> P D C Aを視覚的に確認するツールとして有効 生徒一人ひとりの目標が分かりやすかった。
課題	<p>○活動場所が狭い</p> <ul style="list-style-type: none"> すごろくが床に置いてあったが, ホワイトボードに貼るなどした方が見やすいか <p>○生徒への具体的な評価の工夫</p> <p>○教材・教具の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 手順表の③と⑥が同じ表示だった。混乱した生徒もいたのでは 手順の一部を飛ばしていた生徒もいた <p>○単元の目標の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 内容を考えることに関わることがあっても良かったか 目標の中に「活動を楽しむこと」が含まれてもいいのではないか 	<p>○友達と関わる場の設定の難しさ</p> <ul style="list-style-type: none"> あえて何かの役を任せることで, 自信が付く例もある(高等部の生徒で, 応援リーダーになったら自信を持っていたというケースがあった) <p>○環境設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 床に座った状態では, すごろくの盤面が見えにくかったのではないか。 お題を貼りたい場所を選ぶとき, 床から立ったり座ったりの繰り返しが大変そうだった。(不要な待ちができていた。) 	<p>○生徒同士の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表のあと, 他者からの評価を聞くのが良いのでは。 <p>○発表するカードを事前に, または完成した順に決める活動を入れてもよかった。</p> <p>○作業量の調整が必要か(多すぎた?)</p> <p>○お題の確認をT1だけが担当</p> <ul style="list-style-type: none"> 待ち時間が増えていた
改善策	<p>○活動場所の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 動線を確保するためにテーブルを使用する, すごろくを壁(ホワイトボード)に貼る等 <p>○生徒が自分で分かる形での評価を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりのよかった点を具体的に称賛する。 手順表に花丸のカードを貼ったりする。 個々の発表時に具体的な評価を行う。 <p>○教材の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒によっては, 手順表が手元にあることで正確に作業できるかもしれない <p>○主体的な学びと評価</p> <ul style="list-style-type: none"> どうしてこのお題を考えたのか発表することで主体的な学びと評価につながるか 	<p>○機会を増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> 友だちの前で自分の言いたいこと, 伝えたいことを話す機会を増やし, 友だちに話しを聞いてもらえる喜びを味わわせたい。 <p>○声がけについて</p> <ul style="list-style-type: none"> どういう声がけが有効だったか振り返る。(検証) <p>○生徒にあった選択肢の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> 実態に合わせて2択～選択させる。 <p>○話し方の様式を準備</p> <p>○失敗体験をなるべく少なく, 成功体験を多く</p> <p>○価値観, 経験を友達や教師と共有できる授業</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなが「楽しい」ことが分かると, 自分も楽しいことを素直に表現できる。それができていた授業だった <p>○環境設定</p> <ul style="list-style-type: none"> いすに座って活動するほうがよい。紙板書は大きな作業台や机を合わせた上に置くなどする。 	<p>○安心して表現できる(受け入れてもらえる, 否定されない)ことが主体的な行動や自信をもって自己表現できることにつながる。</p> <p>○発表をしっかりと聞き合うことで, 次へのヒントや意欲になる。</p> <p>○はじめはしっかりと教わる必要がある。その蓄積があった上で, 自己選択・自己決定ができるようになるのでは</p>

R1 授業研究会② ワークシートのまとめ

令和元年9月13日(水) 5校時 高等部リサイクル班 作業学習「ござえんちゃハウス販売会に向けてみんなで製品づくりをしよう」

授業者：伊藤嘉亮(T1), 他6名

	協議の柱1 生徒の主体的な学びのための目標・手立て・評価について	協議の柱2 授業の中での生徒の「できる状況づくり」について	その他
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○長期的な目標設定 ○教師の指示 <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの生徒のことを良く理解した適切な指示 ○意欲付けや見通しを持つことにつながる教材 <ul style="list-style-type: none"> ・掲示物により目標が分かりやすく、意識できていた。 ・写真付きの手順表が分かりやすい。 ・教室掲示により作業計画、目標、売り上げが分かりやすく、生徒が意識できていた。 ・完成した製品を目につくところに置くことは意欲付けにつながる。 ○主体性 <ul style="list-style-type: none"> ・個々の目標はとても良い。さらに自己、相互、教師の評価がると良い。 ・生徒主体の作業内容 ・生徒が考えて作業している ・生徒が自分の担当する作業に習熟している。 ・生徒同士が協力し合う姿が見られた。 ・みんなでやり遂げる楽しさや充実感がある。 ○効率的な作業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・パルプ綿、パルプ液づくりの生徒がミキサーの待ち時間に紙ちぎりをしている。 ○5分間紙ちぎり <ul style="list-style-type: none"> ・集中して取り組んでいて良かった。 ・重さを量ることで成果が分かりやすい ・教師も一斉に取り組み手本になっていた。 ○振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・個々に丁寧に対応していた。次への意欲にもつながる。 ○評価について <ul style="list-style-type: none"> ・目標数、計量数で評価しやすい。 ・期間をまとめることで見通しが持ちやすく、振り返りもできる。 ・それぞれがその日の成果をファイルに記録している。 ・目標を意識できる掲示が良い。 ・終わりのミーティングで班毎に成果を発表していた。 ・みんなで拍手する姿が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○やることが分かり自ら取り組める仕組み <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた、自分から取り組める作業内容 ・生徒一人ひとりが作業を理解していて黙々と取り組むことができる。 ・各自に準備された、一人で作業を進められる支援グッズ(トレイのマスク目、芯切りの台紙) ・生徒が自分たちで準備できる工夫 ○個に応じた支援、構造化 <ul style="list-style-type: none"> ・個々に応じた作業内容と支援がなされ、みんな静かに落ち着いて作業していた。 ・生徒によっては、自分のペースで仕事ができている。 ・作業計画が分かりやすく、見通しが持ちやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の進め方、雰囲気 <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方に余裕があり、雰囲気も良く、生徒の表情も良い。 ○生徒の反応 <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、返事、話すときの声の大きさ、先生の話聞くとき頷く等、反応がしっかりしている。 ○OK.Tさん目標が達成 <ul style="list-style-type: none"> ・人や周囲の物に気を取られず、最後まで集中。持てる能力やよさが発揮されていた ○作業の単元化 <ul style="list-style-type: none"> ・目標を意識して取り組んでいる。 ・みんなでがんばろうという一体感が持てる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○自分で考えて動く状況作り <ul style="list-style-type: none"> ・個人目標を意識し、「たくさんパルプ液を作るにはどうしたらよいか」「待っている間に何をすればよいか」等を自分で考えられるとよい。 ・早く作業することの意義や必要性を分かりやすく説明する必要がある。 ・生徒が主体的に取り組むためには、楽しんで作業できるような工夫が必要。 ○指導案 <ul style="list-style-type: none"> ・手立てに「声掛け」が多い。主体的な学びにつながるだろうか。 ・評価の観点が曖昧 	<ul style="list-style-type: none"> ○作業内容の構造化 <ul style="list-style-type: none"> ・どういう状態だと「やり直し」になるのか、見本があった方がよい。 ○作業を担当する生徒の人数 <ul style="list-style-type: none"> ・作業毎の担当人数に偏りがあるのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○視覚教材の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒写真と職員写真が区別できる提示の工夫 ○評価の観点の具体化 <ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点を表現が抽象的ではないか。評価の根拠をどこに求めているのか ○製品づくりの工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・製品作りに生徒のアイディアや個性が活かされているか。 ○指導内容の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・単元の指導内容の流れに見通しや意欲作りの意図があるのか。 ・5分間の紙ちぎりの意図の明確化。 ○集団作り、意識作り <ul style="list-style-type: none"> ・(困難度の大きい子も含め) みんなで製品を作り、販売会を成功させるという大目標を達成するために、どう集団をまとめているのか。意識作りをしているのか。いよいよ目標実現という過程で個の活躍をどう活かすかか。 ○作業するスペースの確保 <ul style="list-style-type: none"> ・ミキサーがけのグループの人数が、テーブルの広さに比して多い。 ○作業時間の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・終了時間が少し早い。 ○目標設定 <ul style="list-style-type: none"> ・単元ゴールとなっている販売会に行ける生徒に限られている。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○評価 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士の相互評価があるとよい。生徒の主体性にもつながる。 ・指導案の評価の観点を具体的に表記する。 ○作業の成果が目に見えるような工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・数、個数などを作業中に確認できるように提示し、達成までにどれくらいなのかも見て分かるようにする。 ・単元全体の進捗状況や達成度が分かるようにする。 ・全体の製品の出来高表などがあればよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作業を担当する生徒の人数 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の仕事量を確認して、その都度、担当人数等を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○安全性 <ul style="list-style-type: none"> ・パルプ綿作りの時はマスク等を着用する。

R1 授業研究会③ ワークシートのまとめ

令和元年10月8日（火） 9：45～10：30 小学部5年1・2組 生活単元学習「アルバムをつくろう」 授業者：藤原綾子（T1），他2名

	協議の柱1 児童の主体的な学びのための目標・手立て・評価について	協議の柱2 中学部・高等部を見越した、小学部での学習について	その他
成果	<p>○児童の実態に合わせた学習内容、教材・教具の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手順表がイラスト入りで分かりやすい。 ・手順表があることで、見直しをもって自分で確認して取り組むことができる。 ・手順表に全体用と個人用があり、個にあわせた工夫がされている。 ・手順表の文字が白黒反転（背景：黒、文字：黄）して見やすい。 ・実態に合わせた道具を使用して作業ができるように工夫されている。 ・事前に個人ごとの教材が準備されていてわかりやすい。 ・児童が学習内容をきちんと理解できていて、どんどん作業を進められている。 <p>○児童の主体性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塗り絵など、児童が選択できる活動がある。 ・スケジュールなど、自分が何をするか、わかって行動できている。 ・児童が考える場面の設定がある。 ・早く終わった児童が静かに待ってられる工夫（次の活動に取り組む、読書）がある。 <p>○振り返りの効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真を見せたり、声かけにしたりすることで9月の行事を思い出せるようにしている。 ・前の月に作成したアルバムを見ることで、安心して取り組める。 	<p>○学習習慣作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告や手順表確認が習慣付けされていてよい ・のりやペンの使い方がきちんと身に付いている。 <p>○手順表の使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手順表がとても分かりやすい。徐々に感じが増えていくなど、中・高に行くにしたがって、手順表の中身を変えていったり、手順表がなくなったりしてもできるように育てていく必要がある。 <p>○道具の使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいな仕上がりを意識してハサミを使っていたことが、高等部での作業につながる。 	<p>○教師の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実態に応じた教師間の連携、緊急時の対応等、T-Tのコンビネーションがよい。 <p>○児童のクールダウン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机を下げる、少なめの声かけ、距離をとるなどの方法が適切だった。
課題	<p>○単元の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月毎のアルバム作成が適切か疑問。 <p>○教師の声かけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の説明が長い。 ・児童が活動したことを思い出せない段階で、教師がどんどん話してしまっている。 ・教師が待って児童に一人で考えさせる時間がもう少しあると主体的に取り組むことにつながりやすいかもしれない。 <p>○早く終わった児童の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音の出る絵本が、他の児童の活動の妨げにならないか。 <p>○手順表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒地に白文字の方が見やすいのではないか。 	<p>○感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「楽しかった」で感想が終わってしまう。 <p>○振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間が空きすぎると忘れてしまう。 <p>○道具の使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はさみの使い方など、危ない場面があった。 <p>○学習内容のレベルアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生から取り組んでいる活動であるが、活動内容をどのようにレベルアップしていくか。 <p>○言葉遣いや話しを聞く態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学部のどの段階でどのように指導すればよいか。 	
改善策	<p>○単元の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事毎にアルバムを作る。 <p>○児童の自己選択の幅を広げる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塗り絵の他にも自分で選べる教材を準備する。 ・塗り絵を一つ一つ見せるのではなく、ミニホワイトボード等に貼っておき、そこから選ぶようにするなど。 ・中、高では写真を自分で選ぶ活動を行っている。（小でもやってみたいがタブレットの数や児童の実態によって難しい場合が多い） <p>○時間の使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から取り組んでいる単元なので、教師の説明は最小限に抑える。 ・児童に一人で考えさせる時間を、もう少し長めにとる。 <p>○待ち方の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待つのも勉強という意識を育てる。 ・メインの活動に関わりのある活動を準備する。 	<p>○感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感情を表現する機会を増やす。幅を広げる。 <p>○振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早い内に（日数を空けずに）振り返りを行う。 <p>○道具の使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全確認マニュアルの作成 ・運筆ことば、はさみ切りことばの使用 <p>○言葉遣いや話しを聞く態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一律に時期を決めるのではなく、その児童に適したタイミングで指導する。 	<p>○カタカナの使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カタカナを読める児童がいれば、カタカナで表記し、ふりがなをつける。 <p>○レイアウト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由にレイアウトするのが難しい場合は、見本を用意し、見本と同じようにする方法もある。

1 テーマ（全学部共通）

児童生徒がより主体的に学ぶ姿を目指して～新学習指導要領実施に向けた授業の見直し～

2 学部の方針

学習指導要領が改訂され、特別支援学校の小学部においては現在移行期間にある。職員それぞれが改訂された学習指導要領に目を通しているものの、その内容についてはこれから読み深めていく段階にある。そこで研究初年度は、学部全体で新学習指導要領の内容について理解を深める1年にしたい。そのなかで新学習指導要領の内容について分からない部分を共有し、小学部としてどのように捉えていくのか、主体的な学びと絡めながら具体化していく。また、学部研究では新学習指導要領を読み深める教科を限定し、学団ごとに授業実践を行うことにした。教科を限定した理由は、研究初年度として研究の流れを職員全体でつかむ必要があること、学習指導要領の内容や主体的な姿について共通認識が必要であると考えたからである。様々な教育課程の児童がいるなか、音楽は児童も職員も全員が関わっている教科であることから、学部全体で取り組み、授業を互見することができる。さらに、年間をとおして授業の内容に大きな流れがあることから取り組みやすく、主体性を引き出しやすいと推測した。このことから、1年次は「音楽」を取り上げ、研究を進めていくこととした。2年次以降は、さらに教科等を広げて研究に取り組んでいきたい。

3 1年次の研究

（1）内容及び方法

ア これまでの研究の再確認

すぐに実践に取り組み始めたため、これまでの研究について振り返る機会を作ることができなかった。

イ 新学習指導要領の内容の理解の促進

学習指導要領等の音楽科に関するアンケートを行い、学部研究会で内容や取り扱いについて検討した。

ウ 授業研究の推進

学部研究会をとおして、事例を持ち寄って授業を見合い、授業内容や改善点について共有した。

エ 授業改善の方法及び授業内容の共有

授業改善の観点や授業の記録などを統一し、職員全員で生徒一人一人の主体的な姿について共通意識をもって取り組んだ。

（2）成果と課題

平成 30 年度は音楽科に焦点を当て、記録シートを活用しながら児童が主体的に学ぶことができる授業について検討してきた。以下、今回の取組による成果と課題を挙げていく。

ア 成果

（ア）新学習指導要領の内容の理解の促進

- 新学習指導要領（音楽）を読み、共有したいことや深めたいことについてのアンケートを実施し、以下の項目について話題にした。

a 改訂のポイント、段階ごとの目標や内容	b 新学習指導要領内の文言
c 段階的な指導と共通理解	d 評価
e 共通教材の取扱い	f 主体的な学びに関すること
- 授業実践をするなかで、新学習指導要領（音楽）の3つの観点に合わせた授業の目標を立て

るように改善した。

(イ) 授業研究の推進と授業改善の方法及び授業内容の共有

- 現在の音楽の授業に関するアンケートを実施し、その結果を共有した。
 - a 授業の流れに肯定的な捉え多数
 - b 幅広い実態の児童への一斉授業の難しさ
 - c 目標・内容・評価に関すること
 - d 音楽の専門性の向上
 - e その他
- 学団ごとに音楽の授業を検討し、授業内容や指導方法についてアイデアを出し合うことで、職員の共通理解をより深めて授業を行うことができた。また、それぞれの学級の児童の実態や指導の困り感についても共有することができた。
- 学部研究会で、記録シート①（資料小1）・授業記録ビデオ・学習指導案（略案）を用いて、低学団・高学団の授業実践を発表した。互いの授業内容や児童の様子を共有することができ、改めて授業を見直すきっかけになった。
- 授業実践や記録シート②（資料小2）から、これまでの授業で行ってきたことや今回改めて授業を見直し実践する中で工夫した手立てが、児童の主体的な学びの姿を育てていることに気付くことができた。
 - a 児童の興味関心を引きつけるような教材教具
(本物のドングリを用いた手作りマラカス、もみじの造花、ICT 機器の活用など)
 - b 題材の選定（なじみある曲・季節や流行に合ったもの）
 - c 活躍できる場の設定（一つの題材に歌唱・楽器・身体表現と複数の要素をもたせる）
 - d 授業の見通し（授業の流れカード提示）

イ 課題

(ア) これまでの研究の再確認

- すぐに実践に入ってしまったため、これまでの実践研究について振り返る機会をつくることができなかった。

(イ) 新学習指導要領の内容の理解の促進

- 新学習指導要領（音楽）に関するアンケートの回答について、学部研究会で取り上げた。内容の取扱いについての配慮事項に関して、体を動かす活動とは振り付けをすることでよいのか、現在の音楽の授業を振り返りながら意見交流をしたが、実際の授業に生かしたり、改善したりすることまで至らなかった。

(ウ) 授業研究の推進と授業改善の方法及び授業内容の共有

- 学部研究会をとおして得られた検討事項や、授業研究会、実践交流会での意見について今後検討する。
 - a 共通教材の取扱い
 - b 扱ってきた題材の整理
 - c 授業の構成
 - d 指導方法、教材教具（楽器の扱い方に関する指導・音階の色分けやリズム譜の表記方法）
- 学団ごとに音楽の授業を見直し、授業内容や指導方法、改善できる部分について話し合ってきたが、検証するための十分な実践時間や授業を振り返る時間を取ることができなかった。
 - a 児童の座席
 - b T2以下の動き
 - c リズムを打つときの言葉掛け
 - d 楽器の選定

4 今年度の研究推進について

低学団は「日常生活の指導」を研究対象授業とする。毎日繰り返すことで習慣化していく学習活動について、授業を見直すとともに、発展的な内容を取り入れながら授業改善に取り組んでいく。高学団は、「生活単元学習」を研究対象授業とする。一単元の中で、次の授業に向けた授業改善を行うとともに、前単元の改善策を次の単元へも生かすよう授業改善に取り組んでいく。

低学団、高学団ともに、単元や授業の目標・手立て・評価等を記録し、学団・学部で協議、共有する。そして、指導方法を共通理解したり、有効な手立てを他児童へも反映させたりすることで、児童がより主体的に学ぶ姿を引き出していきたい。併せて、単元や授業に関わる教科で育成を目指す資質・能力も明らかにすることで、新学習指導要領の内容についても意識していきたい。

(1) 内容と方法

ア 授業実践

- ・6月～7月頃に1回、8月～9月頃に1回、単元計画シート、指導略案、授業記録シートを活用した授業実践を行う。目標、手立て、関わる教科で育成を目指す資質・能力等を明らかにする。
- ・PDCAサイクルによる授業改善を行う。

イ 実践報告

- ・学団ごとに実践報告、協議を行い、実践内容を共有し、次の単元や授業、他の児童の指導へ生かす。
- ・学部全体の実践内容を共有する。

ウ 成果と課題をまとめる

- ・児童の主体性を引き出すために有効だった手立てや今後の課題について確認する。

(2) 推進日程

4月	15日(月)	学部研究会①	全体研究の内容、進め方について協議
5月	8日(水) 30日(木)	学部研究会② 全体研究会	学部研究の進め方、内容について協議 全体研究及び各学部の研究の内容、進め方について共通理解
6月	14日(金)	学部研究会③	研究の進め方について
7月	9日(火) 25日(木) 31日(水)	授業研究会① 学部研究会④ 高教研講演会	中学部の授業提案についての協議 学団での実践発表と協議 「知的障害教育の『特徴』を活かした『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業実践」 講師 米田 宏樹 氏 筑波大学人間系 准教授
8月		学部研究会⑤	単元計画シート、授業記録シートの様式についてのアンケート記入
9月	17日(火)	授業研究会② 学部研究会⑥	高等部の授業提案についての協議 学級での実践計画
10月	8日(火) 18日(金)	学部研究会⑦ 授業研究会③	学団での実践発表と協議 小学部の授業提案についての協議
11月	28日(木)	学部研究会⑧	実践交流会に向けて(低学団と高学団の実践交流及び、今年度の小学部研究の成果と課題について協議)
12月	25日(水)	第2回 全体研究会	全体研究及び各学部の研究について中間報告及び、それまでの成果や課題、次年度の進め方についての協議
2月		学部研究会⑨	2年次のまとめと、3年次の研究に向けて

(3) 実践事例

単元名	アルバムをつくろう
単元の目標	それぞれに合った道具を使って、制作する。【知識・技能】 行事等を振り返り、思い出しながら制作する。【思考・判断・表現】 活動の流れをわかり、活動に取り組む。【学び・人間性】

<p>授業概要</p>	<p>第1時 ○前月の学習や行事の振り返り ・写真や教師からのヒントを基に、前月の学習内容を想起する。 ○タイトル書き、挿絵用の塗り絵 ・「〇月」「こうがいがくしゅう」等のタイトルを用紙に記入する。 ・教師と一緒に書く、なぞり書き、視写など、児童の実態に合った方法で取り組む。 ・季節や行事の内容に関連する塗り絵をする。必要な児童は手本を見て取り組む。 ○写真の切り取り ・A4用紙に印刷された写真を切り取る。児童の実態に合わせて写真の大きさや余白の有無などを工夫する。</p> <p>第2時 ○写真のレイアウト、貼り付け ・用紙にタイトルと写真を並べ、レイアウトする。 ・スティックのりや両面テープを使って用紙にタイトルと写真を貼り付ける。 ○ラミネート、リング通し ・タイトルと写真を貼り付けた用紙をラミネートフィルムで挟み、ラミネーターに通す。ずれなどが出た場合、教師の援助を受ける。 ・教師と一緒にページの向きを確認し、パンチを使って閉じ穴を開ける。 ・これまでに閉じてあるアルバムに続けて閉じる。</p>
<p>主体的な学びのための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> 前月の学習内容を想起しやすくするため、写真を提示する。 手順表（全体に示す物及び、実態に応じて個人用に準備した物）を準備し、全体的な行程の見通しをもちやすくしたり、進度の確認をしたりできるようにした。 塗り絵の見本を準備し、色を意識して塗ることができるようにする。 切り取る写真の大きさを変えることや、印刷面の余白をなくすことなど児童の実態に応じて活動の内容や量の調整をした。 	<p>授業で見られた児童の主体的な学びの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真を見たことで、より詳細な内容まで想起できたり、発語の難しい児童が誕生日ケーキの写真に息を吹きかけたりした。 教師の声掛けをきっかけに手順表を確認したり、手順の内容を読み上げたりした。 一連の工程で必要な道具をまとめて準備した。 まとめの際に、次の時間にどこから再開するか理解し、発言していた。 それまで単色で塗っていた児童が、きれいに色分けして塗ることができた。 塗り絵の見本を見て、必要な色を最初に全て抜き出していた。 活動の終わりまで集中して取り組むことができたようになった。
<p>成果及び改善点</p>	<p>【成果】 ○児童それぞれの実態に合わせた活動内容や教材教具の工夫をしたことで、児童が力を発揮して学習できた。 ○手順表を活用したことで、行程や準備物について見通しをもって活動できる児童が増えた。 ○写真による振り返りをしたことで、より細かな内容を想起してアルバムの作成に取り組むことができる児童が増えた。</p> <p>【改善点】 ○手順表の見方がまだ理解できていない児童のために、より見やすい形式や進度が分かる目印を付けるなど活用の仕方を更に工夫する必要がある。 ○これまでの学年でのアルバム作りの内容を受けて、活動内容をどのようにステップアップさせるかの検討が必要である。 ○より記憶が新鮮なうちに振り返りの学習を効果的に行うなど、学習を終えてからアルバム作りで振り返るまでの期間について検討が必要である。</p>

(4) 成果と課題

ア 成果

(ア) 単元計画シート、授業記録シートの様式改善

- ・シートの様式について意見を出し合うことで、より書きやすく、活用しやすく改善することができた。(小学部資料1)

(イ) 授業づくりシートを活用した授業改善

- ・授業づくりシートを活用することで、PDCA サイクルによる授業改善を行うことができ、児童の主体的な姿を引き出すことができた。(別紙・・・小学部資料2)

P・・・シートに記入することで単元計画を整理することができ、児童に合わせた目標と手立てを細かく考えることができた。

D・・・毎回の目標や評価を明確にしておくことで、職員間で共通理解し、指導にあたることができた。

C・・・自分の指導を整理して見つめ直すことができ、手立ての有効性や意図した反応が引き出せたかを振り返ることができた。

A・・・評価の根拠を考えることで、改善策を考えて次時に臨むことができた。

(ウ) 学部内での実践報告と協議

- ・学団ごとに実践報告と協議を行うことで、有効だった手立てを共有したり、うまくいかなかった手立てについてアドバイスをもらったりすることができた。
- ・各実践グループの実践報告や6年生の授業公開を通して、他学年の学習内容や児童の実態について知ることができた。
- ・低学団では、例年の取り組みで行っていた朝スポーツの内容について研究で取り上げたことで、低学団の児童に必要な活動内容について見直し、改善することができ、児童の主体的な姿を引き出すことができた。

イ 課題

(ア) 単元計画シート、授業記録シートの様式改善

- ・シートの様式を改善をしたことで、個人目標を書く欄がなくなった。個人目標についても意識できるよう、シートに改善を加えたり、記入の仕方を工夫したりする必要がある。
- ・評価の3観点に沿った目標設定について、どのように捉えればよいか悩んでいる職員が多かったので、目標設定の仕方についての意見交換をする場が必要だった。

(イ) 授業づくりシートを活用した授業改善

- ・授業改善を目指す中で、各実践グループで、手立てがうまくいかなかった、目標達成に至らなかった、実践が取り組み途中である等の課題が挙げられたので、それぞれの学団・学年・学級での課題解決に向けた取り組みを行っていく必要がある。

小学部資料1

単元計画シート(小学部)

単元名		指導者	
単元の目標	【知・技】	関わる教科	・
	【思・判・表】		
	【学び・人間性】		
単元計画		時数	指導内容
	個人目標の欄を削除した。 全ての児童の全ての目標・手立て等 を書くと、1ページにおさまらず見 にくくなるため。		
単元の評価	その根拠	改善策	
	「課題」欄から変更。 「〇〇の手立てが有効だった」「△△の 手立てがうまくいかなかった」など、手 立ての有効性を明確にするため。		

小学部資料1

授業記録シート(小学部)

単元名		指導者	
期日		時数	
関わる教科			
本時の目標	手立て(抜粋)	評価	改善案
【知・技】			
【思・判・表】			
【学び・人間性】			

単元目標を削除。
単元計画シートに記載するため。

「児童生徒の様子」欄を目標の評価等を記入するように変更。
目標に応じた手立て、評価を明確にして改善案を考えやすくするため。

対象児童名、個人目標を削除。
授業全体を1枚のシートで評価するため。
(低学団は、対象児童を設定したため、児童名を記入した)

主体的な学びのための手立て	授業でみられた児童の主体的な学びの姿
<p>低学団（朝スポーツ①走ってみよう：ランニング）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童に人気の USA の曲を流す。 ・周回表を活用し、一週ごとに○を加え、増えていくことが分かるようにする。 ・励ましの声掛けをする。 ・名前を呼び、手をつないで一緒に走るように声掛けをする。 ・走る前に同じペースの児童を確認する。 ・視覚からの情報が得意なので、カウンターを活用し、数字で周数を伝える。 ・内側歩行から取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲がなり始めると、喜んで走りだし、曲が終わると、元の場所に集合することができた。 ・周回表に○が増えていく様子を見て、自分から走り続けた。 ・指で○周と自分から伝えた。 ・止まってしまう回数が減少した。 ・また走り出すことができた。 ・友達から声を掛けられることで、自分から走り出すことが多くなった。 ・教師と視線を合わせその手を握り、教師と一緒に走り続けることができた。 ・競争意識が芽生え、最後まで走ることができた。 ・1周ごとに周数が増えていくことが分かり、励みになり走り続けた。 ・促しに応じて歩き続けることができた。
<p>4-1（野菜をそだてよう）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雑草のある部分をロープで囲み、その中の雑草を抜くようにする。 ・働く報酬があるということを伝え、意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロープで囲んだ部分の雑草を抜くことができた児童もいた。 ・報酬（おやつ）で意欲を高めた児童もいた。
<p>4-2・3（お楽しみ会をしよう／縁日遊びを楽しもう）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しの取り組みや、毎時間同じ配置で行う。 ・二つから一つだけ選択することができるように、シールを1枚だけ渡す。 ・手順表で、制作途中の物やハサミなど実物を黒板に貼って提示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ活動を繰り返すことや同じ配置にすることで、徐々にやることを理解し、主体的な姿がみられるようになってきた。 ・指差しでは二つとも指してしまう児童が、二つを見比べ1つだけ選択することができた。 ・実物を提示することで、見て理解して取り組めることが増えた。
<p>5年（アルバムをつくろう）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵のための塗り絵の手本を準備する。 ・余白を残さないで切ることができるように、手本を示す。 ・実態に合わせて、余白を削った用紙から写真を切り取ることができるように準備する。 ・写真を提示して学習内容を思い出すことができるようにする。 ・全体、個人の手順表を準備して自分で確認したり、教師と確認したりできるようにする。 ・必要な道具や材料を分かりやすく示し、自分で準備してすすめられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段は単色で塗る児童が、きれいに色を塗り分けて塗っていた。 ・自分の切った写真を見て、余白を見つけて切ったり、自分から確認を求めたりするようになった。 ・余白を削ったことで作業時間が短くなり、集中が持続した。 ・写真を見て、思い出しての発言が増えた。 ・誕生会のろうそくを吹き消す写真を見て、息を吹きかけた。 ・教師の声掛けをきっかけに手順表を確認した。 ・一連の工程に必要な道具をまとめて準備した。
<p>6年（中学部の様子を知ろう）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味のある作業学習を選んで発表するとき、写真を用意して選びやすいようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4枚の写真を見て、思い出しながら選ぶことができた。

<ul style="list-style-type: none">・作業と製品が一致するように、実物を見せながら見学する。・製品の実物を用意する。・発表しやすいように必要に応じて定型文を提示する。	<ul style="list-style-type: none">・興味のある作業やできそうな作業を聞かれて答えることができた。・実物があることで自分の意思が伝えやすくなった。・定型文を用意したが、発表の仕方を伝えることで自分の意見を発表することができた。・友達の見解に引っ張られずに自分のやってみたいことを発表できた。
---	--

1 テーマ

児童生徒がより主体的に学ぶ姿を目指して～新学習指導要領実施に向けた授業の見直し～

2 学部の方針

中学部では、「現在の生徒及び近い将来在籍する生徒にとってより良い学びができるような授業実践を行いたい」という思いの下、生徒が主体的に学ぶことができる授業作りを日々行っている。生徒の主体的な姿は一人一人によって異なり、その姿が発揮される場面も様々である。日々の学習の中で知識及び技能を習得し、思考力・判断力・表現力等を育成し、生徒自ら学びに向かう姿勢や生徒一人一人の人間性をゆっくりと養い育てていくことで、生徒の生活の充実・発展につながると考えている。これを踏まえ、生徒が日々の学習で身につけた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解し、考えを形成すること、そして、中学部全体で問題を解決したり思いや考えを基に創造したりすることができる「生活単元学習」を深めていき、生徒の主体性を引き出すことができるような研究を進めていきたい。「主体的な姿」が生徒一人一人によって異なることから、生徒の実態把握はもちろん、授業そのものや目標設定で職員同士が生徒一人一人の主体的な姿を共通認識し、その姿を目指した授業作り（活動内容・流れ、場の設定・道具・補助具等の工夫、職員の関わり方等）を行っていくことでより良い学習につながると考える。

3 1年次の研究

(1) 内容及び方法

ア これまでの研究の再確認

全体研究・中学部研究を振り返り、これまでの研究で捉えられてきた主体的な姿などについて再確認をした。

イ 新学習指導要領の内容の理解の促進

学部研究会をとおして新学習指導要領の理解を深め、生活単元学習において中学部内で具体的に捉えていくよう進めた。

ウ 授業研究の推進

中学部の各学級・学年などでの生活単元学習について研究授業及び授業研究会を実施した。

授業を行いながら、また、研究会で出た意見等を踏まえながら、生徒の主体性を引き出すために必要なことを一人一人確認し、学部で共有した。

エ 授業改善の方法及び授業内容の共有

授業改善の観点や授業の記録などを統一し、職員全員で生徒一人一人の主体的な姿について共通意識をもって取り組む。

(2) 成果と課題

H30年度は、それまでの実践を振り返りながら、生活単元学習での生徒の主体性を引き出すための授業作りについて学部全体で考えを共有してきた。

ア 成果

(ア) 中学部全体で生活単元学習の授業を考え直す機会を設けることができた。これまでの研究で学部として捉えてきた“生徒の主体的な姿”を確認したり、今年度行った全体アンケート

トを基に、主体性に対する方向性をまとめたりして、職員間で共通認識して実践に取り組むことができた。

(イ) 新学習指導要領の研修を重ねてきたことで、新学習指導要領の内容や目標等と関連させながら単元設定や授業内容を考えていくことができた。

(ウ) 授業記録表を作成したことで、毎時間の授業を振り返り、生徒の様子や改善点等を職員間で共通理解しながら次の授業に生かすことができた。また、学部全体でも授業を参観したり意見を出し合ったりしたことで生徒の実態把握や情報共有を行っていくことができた。

イ 課題

(ア) 「生徒主体の授業作りや単元設定」について深められる研究にならなかった。毎年行われる行事等の単元が前年までのものを踏襲したのになりがちで、その単元自体の組み立て方を十分に検討できなかった。また、生徒の気付きや意見を取り入れた授業作りを行っていくことに難しさがあり、より職員間で検討していく必要がある。

(イ) 授業記録表（資料中1～3）を作成して取り組んだが、時間の関係等で毎日取り組むことが難しいことがあった。また、記録表の様式が書きづらいところもあり、少しの時間でも取り組みやすい様式等を考え、変更する等の改善が必要だった。

(ウ) 生徒の実態把握の段階から職員間で話し合い、一人一人に合った活動内容の設定や指導・支援を考える必要がある。それぞれの見立ては異なり、それによって学習の指導・支援方法や評価の仕方も異なってくるので、より職員間で方向性を統一していく必要がある。

以上の成果と課題を踏まえ、今後は新学習指導要領実施に向けて、目標や内容等と関連させながらより具体的に単元内容等の設定を考え、実践していきたい。生徒の実態を踏まえた単元の設定はもちろん、毎年行われる行事等の単元についても生徒の気付きや考えを活かし、内容や活動についても検討を重ねていきたいと考えている。

4 今年度の研究推進について

平成30年度に引き続き、生活単元学習の授業改善に取り組み、全校授業研・学部授業研に各学年1回の授業提案を行い、協議を行う。昨年度の課題から、生徒が主体となって進めることができる授業作りを目指し、学部全体で深めていきたいと考えている。また、実践研究部から提示された、全校共通の指導案・単元計画・記録シートの様式を活用して、新学習指導要領の主旨を踏まえた、目標・内容の設定、手立ての工夫・評価の検討を行う。さらに、生徒の実態や、主体性の捉えの職員間での共通理解を深め、個々の生徒への指導・支援方法や評価の仕方の統一を図っていきたい。

(1) 内容と方法

ア 授業実践

- ・生徒が主体となって取り組むことができる授業作りの検討・実践を行う。（指導案、単元計画、記録シート様式を活用する。）
- ・生徒の主体性の捉え方についての共通理解（確認）をする。
- ・生徒の主体的な姿を引き出す目標・内容・手立ての工夫・評価について、検討する。
- ・新学習指導要領の主旨を理解し、授業実践に活かすことで授業改善につなげる。

イ 実践報告・交流

- ・全校授業研において授業提案を行い、研究協議を通して広く意見をもらい、授業改善につ

なげる。

- 学部授業研においては、日頃授業等に関わる職員間でより深い協議を行い、授業の成果を共有すると共に、課題を明確にして授業改善に役立てる。
- 全校授業研提案以外の2つの学年から実践報告を行い、協議を通して授業改善の取り組みや課題等について、学部全体で共有を図る。

ウ 研究のまとめ

- ア、イを受け、生徒が主体となって取り組むことができる授業のあり方を整理し、職員間の共通理解を進める。
- 児童の主体性を引き出すために有効だった活動や手立てをまとめ、授業改善に役立てることができる資料を作成する。
- 課題を明確にし、次年度の研究の方向性を確認する。

(2) 推進日程

4月	15日(月)	学部研究会①	全体研究の内容、進め方について協議
			学部研究の進め方、内容について協議
5月	30日(木)	全体研究会	全体研究及び各学部の研究の内容、進め方について共通理解
6月	26日(水)	学部研究会②	授業研究会の提案授業について
7月	9日(火)	授業研究会①	中学部の授業提案についての協議
	31日(水)	高教研講演会	「知的障害教育の『特徴』を活かした『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業実践」 講師 米田 宏樹 氏 筑波大学人間系 准教授
9月	17日(火)	授業研究会②	高等部の授業提案についての協議
10月	18日(金)	授業研究会③	小学部の授業提案についての協議
12月	9日(月)	学部研究会③	第2回全体研究会に向けて
	25日(水)	第2回全体研究会	全体研究及び各学部の研究について中間報告及び、それまでの成果や課題、次年度の進め方についての協議
2月		学部研究会④	2年次のまとめと、3年次の研究に向けて

(3) 実践事例

単元名	お楽しみ会をしよう	
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> • 道具を使って、安全にすごろく作りに取り組むことができる。【知識・技能】 • 自分の意思や考えを表現しながら活動に取り組むことができる。【思考・判断・表現】 • 自分の役割に責任をもち、友達や教師と協力することができる。【主体性】 	
授業概要	学習内容及び学習活動	指導上の留意点(手立て)
	1 あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> • 正しい姿勢と大きな声であいさつするように声掛けをする。
	2 お楽しみ会の日程確認・目標の確認	<ul style="list-style-type: none"> • 事前学習で活用した、掲示物で理解を促す。 • これまでの学習から想起できる事柄を質問し、理解の確認や定着を図る。
	3 前時の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> • 前時までの学習から想起できる事柄を質問し、振り返りを図る。
	4 本時の内容と目標の確認	<ul style="list-style-type: none"> • 紙板書を用いてイメージをもてるようにする。 • 目標を声に出して読むことで、目標を意識できるようにする。

	<p>5 手順の確認</p> <p>6 制作 ・書く、なぞる、貼る</p> <p>7 作成したお題の発表</p> <p>8 まとめ、次時の確認</p> <p>9 あいさつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 紙板書、写真を用いイメージをもてるようにする。 ペンの種類や画用紙の色を複数用意し、自分で選べるようにする。 のりの数を人数より少なく用意し、生徒同士で声を掛け合いながら活動に取り組めるようにする。 手順表を見るように促す。 良い関わりや良い取り組みが見られた時には称賛し、意欲につなげる。 発表の仕方を教師がポイントを示しながら手本を示し、イメージをもって取り組むことができるようにする。 友達の発表をよく聞くように声掛けする。 できあがったすぐろくを見て、達成感へつながるように声掛けをする。 授業開始時と同じ生徒の号令で挨拶をする。 正しい姿勢と大きな声であいさつするように声掛けをする。
<p>主体的な学びのための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の目標と授業ごとの目標の確認。協力を必要とする場の設定。(単元全体) 期待感をもてるようにする声掛けの工夫。 	<p>授業で見られた児童・生徒の主体的な学びの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 選択が苦手な生徒が、数種類の塗り絵の中からスムーズに選ぶことができた。 意思表示が苦手な生徒が、用具がないときに、友達に「貸して」と伝えることができた。 最後まで丁寧に作り上げることができた。 	
<p>成果及び改善点</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 手順表を自分で確認して制作を進めることができるようになってきた。 <p>【改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真やイラストを用いた手順表を提示することで、さらに手順表を活用して、自分で制作を進めることができるようになるのではないかな。 教師の実演等の手本を示すことで、さらにイメージをもちやすくなり、進んで活動できるようになるのではないかな。 	

(4) 成果と課題

ア 成果

- 授業作りシート（単元計画シート、指導略案、授業記録シート）を活用した授業計画・実践を通して、生徒の主体的な姿を引き出す目標・内容・手立ての工夫・評価について検討し、生徒が主体となって取り組むことができる授業作りに取り組むことができた。
- 授業作りシートを活用する際に、新学習指導要領の主旨に沿った目標・内容・手立て・評価を検討し、授業計画・実践・評価に活かすことで授業改善を図ることができた。
- 授業作りシートを活用した職員から様式や使用感等について意見をもらい、改善に向けて検討することができた。
- 全校授業研と学部研究会において授業提案と協議を行い、授業の様子や成果・課題を職員

間で共有することができた。

イ 課題

- 授業作りシートについては、一部の職員による活用と意見収集に留まった。もっと広く（たとえば、各職員につき、担当する授業の中から1事例作成してもらうなど）活用し、様式や使用感についての意見収集を行ってもよかった。
- 新学習指導要領の主旨に沿った目標・内容・手立て・評価について、さらに深めていく必要がある。
- 生徒の主体性を引き出すために有効だった活動や手立てをまとめ、授業改善に役立てることができる資料を作成する予定であったが、作成に至らなかった。授業検討において職員間で共有・情報交換をした話題についてまとめ、活用できるようにしておく。

1 テーマ

児童生徒がより主体的に学ぶ姿を目指して～新学習指導要領実施に向けた授業の見直し～

2 学部の方針

高等部ではこれまで、自分が希望する進路先を自分で選択し、決めて卒業し、卒業後には豊かな生活を送ることを願って「社会生活能力の確立と自己選択・自己決定力の育成を目指して（平 25～27）」及び「社会生活能力の確立をめざして～タブレット端末の活用～（平 28・29）」とのテーマで学部研究に取り組んできた。

卒業後、働く場面においては、自分で考えて仕事をする力や、経験したことは指示がなくとも継続して取り組める力が求められている。一般就労する生徒だけでなく、福祉的就労をする生徒においても、学校時代よりは少ない職員数の中、一定時間、作業に取り組まなければならない。卒業後を見通し、主体的に行動する意識を養いたいと考える。

新学習指導要領には「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開」とある。生徒同士の協働や職員・地域の人との対話をしていくこと、体験を通じて様々な物事を理解していくことなどを大切に、場の設定や教職員からの働きかけ等も、生徒を取り巻く環境と捉え、生徒が主体的に活動できる授業作りに取り組んでいく。

3 1年次の研究

（1）内容及び方法

ア これまでの研究の再確認

過去の研究を振り返り、高等部として考える主体的な姿などについて再確認した。

イ 新学習指導要領の内容の理解の促進

新学習指導要領の内容を確認し、授業実践に取り組んだ。

ウ 授業研究の推進

作業学習等を中心として授業実践に取り組み、支援者の考える主体的な姿について意見交換をした。

エ 授業改善の方法及び授業内容の共有

定期的に作業班毎の授業計画や生徒の情報交換をする時間を設け、授業を振り返ることで課題を共通理解した。現状の課題を明らかにし、授業改善に取り組んだ。

（2）成果と課題

ア 成果

（ア）授業研究の推進

児童生徒の主体的な学びに迫るためのアンケートを実施し、高等部として考える生徒が主体的に学ぶ姿を確認した。

- ・自分からまたは自分で活動する姿。（自分の意思で・自分で気付いて）
- ・自己選択・自己決定する姿。（自分で考え、行動する）
- ・興味関心をもって活動する姿。
- ・今やることがわかり、行動する姿。（見通し）

- ・精一杯やりがいをもって活動する姿。
- (イ) 授業改善の方法及び授業内容の共有
作業学習の授業を見合う週間を設定した。生徒が主体的に学ぶ姿、より主体的に学ぶための工夫に焦点を絞って、お互い授業を参観した。他の作業班を見学することで、普段の生活とは違う生徒の活動の様子や態度に気付くことができた。
改善点や疑問などをまとめたものは各作業班に渡し、各班では内容について検討して授業改善につなげた。

イ 課題

(ア) 授業研究の推進

学部としての研究推進計画の遅れから、授業研究会での授業提案が生活単元学習となった。作業学習の様子を全体で確認することはできなかったが、生徒の実態がさまざまな学級での生活単元学習、特にも一斉指導の場面について協議できたことは意義があった。

作業学習という、指導者からの指示が多くなりがちな学習の中で、いかに主体性を育むか、一人でできる状況を作りながら生徒の自己流にならない取り組みをつくれるかが課題である。

(イ) 新学習指導要領の内容の理解の促進

新学習指導要領については、特別支援学校高等部学習指導要領の改訂が示されていないこともあり、具体的な内容について学習が進められず、全体で行った講演会や2回の学習会で情報を共有した。小中学部の学習指導要領の総則部分や、解説の内容等の学習など高等部の学習指導要領にも関連するであろう部分については、可能な限りで取り組むことが必要だった。

4 今年度の研究推進について

平成30年度の研究実践を受け、今年度は作業学習における授業改善の方法や、授業実践の内容を深め、生徒が主体的に学ぶ姿について、より具体的に迫っていきたい。改訂の内容が発表となった特別支援学校高等部学習指導要領についても随時確認をしながら、主軸を「生徒が主体的に学ぶ姿」に置いて研究に取り組んでいく。

(1) 内容と方法

ア これまでの研究の再確認

過去の実践を振り返り、高等部として考える生徒が主体的に学ぶ姿について研究を深める。

イ 新学習指導要領の内容の理解の促進

新学習指導要領及び特別支援学校高等部学習指導要領の改訂のポイントを確認し、授業実践に取り組む。

ウ 授業研究の推進

作業学習を中心として授業実践に取り組み、生徒が主体的に学ぶ姿について意見交換を活発化させる。

エ 授業改善の方法及び授業内容の共有

- (ア) 作業班毎に一定期間（1週間程度）の積極的授業参観週間を設け、専用の参観シートを活用しながら、生徒が主体的に学ぶ姿について研究を深める。

- (イ) 作業班毎にモデルとなる生徒を2名選出し、授業参観の際は、その生徒が主体的に学び姿を中心に参観する。
- (ウ) 毎月1回程度、各作業班で集まり、モデル生徒の主体性の変容等について話し合う時間を設ける。
- (エ) 作業班に所属していない生徒が学んでいる自立活動について、授業内容の共有を図る。
- (オ) 「目標・手立て・評価」の3点セットを徹底した授業づくりを実践する。
- (カ) PDCAサイクル（計画→実践→評価→改善）の確立。

(2) 推進日程

4月	15日(月)	学部研究会①	全体研究の内容、進め方について説明・協議
5月	8日(水)	学部研究会②	学部研究の内容、進め方について検討・協議
	30日(木)	第1回全体研究会	全体研究及び各学部の研究の内容、進め方について共通理解・協議
7月	9日(火)	授業研究会①	中学部の授業提案についての協議
	31日(水)	高教研講演会	「知的障害教育の『特長』を活かした『主体的・対話的で深い学び』を実践する授業実践」 講師 米田 宏樹 氏 筑波大学人間系 准教授
9月	9日(月) ～ 13日(金)	第1回高等部授業参観週間	高等部作業学習(リサイクル班)
	17日(火)	授業研究会②	高等部の授業提案についての協議
10月	18日(金)	授業研究会③	小学部の授業提案についての協議
11月	18日(月) ～ 22日(金)	第2回高等部授業参観週間	高等部作業学習(縫製班、農耕班)
12月	25日(水)	第2回全体研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部の実践を基にした協議 ・全体研究及び各学部研究についての中間報告 ・助言者による、実践と各学部の取り組みについての助言 ・次年度の進め方についての協議
1月	日() ～ 日()	第3回高等部授業参観週間	高等部作業学習(食品班、受託班)
2月	日() ～ 日()	第4回高等部授業参観週間	高等部作業学習(工芸・木工班)
	日()	学部研究会③	2年次のまとめ、3年次に向けて

(3) 実践事例

单元名	ござえんちゃハウス販売会に向けてみんなで製品作りをしよう
单元の目標	工程や手順を理解し、製品を作る。【知識・技能】 販売会までの見通しをもち、製品作りに取り組む。【思考・判断・表現】 自分の役割を理解し、責任をもって活動する。【学び・人間性】

授業概要	学習内容及び学習活動	指導上の留意点（支援の手立て）
	<p>○始めのミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・作業内容確認 ・服装確認 ・あいさつ確認 ・5分間紙ちぎり ・目標確認 <p>※班長が中心に進める</p> <p>○回収</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昇降口の資源回収 ・トイレトペーパーの芯回収 <p>○パルプ綿づくり</p> <p>活動生徒：5名 場 所：リサイクル室</p> <p>○パルプ液づくり</p> <p>活動生徒：3名 場 所：リサイクル室</p> <p>○パック切り</p> <p>活動生徒：2名 場 所：3-5 教室、訪問教室</p> <p>※教室内で個別に対応</p> <p>○紙ちぎり</p> <p>活動生徒：6名 場 所：3-5 教室</p> <p>○掃除、片付け</p> <p>○日誌記入</p> <p>○終わりのミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業報告 ・連絡 ・終わりのあいさつ <p>※副班長が中心に進める。</p>	<p>・ホワイトボードで作業内容、担当を提示し、確認する。</p> <p>・完成数や目標数について記録用紙や表を提示する。</p> <p>・必要な場合は回収した物を運ぶ場所を声掛けする。</p> <p>・工程の確認など必要なときに声掛けする。</p> <p>・ミキサーの待ち時間に紙ちぎりを行うように声掛けする。</p> <p>・工程の確認など必要なときに声掛けする。</p> <p>・ミキサーの待ち時間に紙ちぎりを行うように声掛けする。</p> <p>・活動を促すように声掛けをする。</p> <p>・切った枚数を確認し、10枚一組にまとめる。</p> <p>・生徒の様子をみながら休憩を促す。</p> <p>・ちぎる大きさなど必要な時は見本を提示する。</p> <p>・必要に応じて活動を促す声掛けをする。</p> <p>・生徒の様子をみながら休憩を促す。</p> <p>・ゴミや片付けるものに注目できるように声掛けする。</p> <p>・一人で掃除や片付けが難しい生徒には付き添い、一緒に行く。</p> <p>・作業を振り返られるように質問したり、場面を一緒に振り返ったりする。</p> <p>・作業量や完成数について活動の様子を踏まえて全体に伝える。</p> <p>・発表が難しい生徒と一緒に発表をする。</p>
主体的な学びのための手立て		授業で見られた児童・生徒の主体的な学びの姿
<ul style="list-style-type: none"> ・販売会を目標とした単元を設定した。販売会までの日程や、完成した製品の数を教室内に掲示して、具体的に提示する。 ・職員が手本の提示を行う。また、手順表等を活用し、作業工程や手順の確認を生徒とともに行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・活動の見通しをもち、自分の目標に向かって意欲的に仕事と向き合う姿がみられた。 →今やることがわかり、行動できた。（見通し） ・作業工程や手順を確実に理解し、自分のやるべき仕事に集中して取り組んでいる姿が目立っ

<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の能力や状況に応じた作業内容・支援ツール・作業場所を設定する。 	<p>た。 →自分から、または自分で活動できた。(自分の意思で・自分で気付いて)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の仕事(チームの仕事)に責任をもち、丁寧な作業を意識して取り組んでいた。また、生徒同士が自然と声を掛け合って協力する姿もみられた。 →興味関心をもって活動できた。 →精一杯やりがいをもって活動できた。
<p>成果及び改善点</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○意欲付けや見通しをもつことにつながる教材 <ul style="list-style-type: none"> ・掲示物(写真付きの手順表、作業計画、目標、売り上げ)が分かりやすく、生徒が意識できていた。 ○主体性 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体の作業内容であり、生徒が責任とやりがいをもって作業していた。 ・生徒が自分の担当する作業に習熟している。 ・生徒同士が協力し合う姿が見られた。 ・みんなでやり遂げる楽しさや充実感がある。 ○効率的な作業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・パルプ綿、パルプ液づくりの生徒がミキサーの待ち時間に紙ちぎりをしていた。 →自己選択・自己決定ができた。 <p>【改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分で考えて動く状況作り <ul style="list-style-type: none"> ・早く作業することの意義や、必要性を分かりやすく説明する必要がある。 ・生徒が主体的に取り組むためには、楽しんで作業できるような工夫が必要である。 ○評価 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体性の発揮につなげるため、生徒同士の相互評価があるとよい。 ○安全性 <ul style="list-style-type: none"> ・パルプ綿づくりの時はマスク等を着用する。

(4) 成果と課題

ア 成果

(ア) 授業研究の推進

- ・昨年度の取り組みをとおして、高等部として考える生徒が主体的に学ぶ姿を確認できた。目指す姿が明確になったことで、より生徒の主体性を意識した取り組みができた。
- ・活動休止中の木工班について、工芸班での前後期実習の作業内容に、木工作业を試験的に導入した。生徒が主体的に、かつ安全に取り組むことができる作業内容について班内で検討し、実践することができた。

(イ) 授業改善の方法及び授業内容の共有

- ・作業班毎に授業参観週間を設定・実施したことで、多様な生徒の主体性やその変容を理解し、授業者・参観者がともに共有することができた。モデル生徒を設定することにより、参観者の視点が焦点化され、より明確に生徒が主体的に学ぶ姿を把握することができた。参観シートに記載のあった評価や感想・意見については、研究部が取りまとめて整理した

ものを作業班毎に還元し、授業改善につなげた。また、授業参観は全学部・寄宿舍へ周知し、学部の枠を超えて、生徒が主体的に学ぶ姿について考え、理解し、共有する場と機会を作ることができた。

- 今年度、研究部が作成した単元計画シートを活用した。自立活動の内容について、シートの形態を生徒の実態や指導・支援の実情に応じて、より分かりやすくアレンジし、学部内で共有することができた。シートを活用することにより、PDCA サイクルが正確かつ確実に実行され、さらに「目標・手立て・評価」の3点セットがはっきりと示された、丁寧な授業づくりを実践することができた。

イ 課題

(ア) 授業改善の方法及び授業内容の共有

- 授業参観週間において、参観者がもう少し増えるとより良い取り組みになる。設定時期の計画的な選定、周知方法の工夫等を図る必要がある。『週間（しゅうかん）を習慣（しゅうかん）』にしていくための意識改革と、環境の整備が必要なのではないかと考える。また、観るだけではなく、実際に授業に入って体験する・関わる・指導する・支援することも新たな視点の獲得や、貴重な気付きにつながるはずである。所属作業班の枠を超えて、職員間の積極的な交流を図ることも今後の新たな施策として考えていきたい。
- 毎月1回程度、各作業班で集まり、モデル生徒の主体性の変容等について話し合う時間をしっかりと設定することができなかった。単元計画シートの共有、担当者間での情報交換は行われたが、活発な意見交換の場と時間を作り出すことが必要であった。

(イ) 新学習指導要領の内容の理解の促進

- 今年度の研究では、主軸を「生徒が主体的に学ぶ姿」に置いたことで、新学習指導要領そのものに焦点を当てた取り組みはできなかったが、各々が講演会や研修会等で得た情報・知識・スキルを意識しながら、日々の授業づくりと向き合うことができたのではないかと考える。

1 テーマ

児童生徒がより主体的に学ぶ姿を目指して

～個別の生活指導計画の作成と活用における、寄宿舎における組織的な改善～

2 学部の方針

本校は教育目標を「児童生徒一人ひとりが個性と能力を発揮し、可能性を最大限に高め、自立的・主体的な生活を送る」とし、その実現のために、寄宿舎目標に「自分から進んで日常生活を送ることができる」「周りの出来事に関心をもち、意欲をもって活動できる」を掲げている。

その教育目標をもとに、寄宿舎生全員を対象に個別の生活指導計画に取り組んでいる。その際に、目標の設定が曖昧となることや、手だてをうまく見つけられず指導内容が大まかなものとなり、効果的な指導を進めにくくなる状況がみられている。

そこで、個別の生活指導計画作成時に、寄宿舎生のよさと特徴を共有し、個性を重視した取り組みを組織的に行う中で、個別の生活指導計画が具体的、効果的な指導となり寄宿舎生が主体的に学び、成長できることをねらい設定した。

3 1年次の研究

(1) 内容及び方法

ア よさや興味関心を生かした実態把握の充実

個別の生活指導計画実態把握の項目を検討し、よさや興味関心を生かした項目の追加等、協議を行った。

イ 興味関心を生かした指導計画検討

各棟1名を対象によさや興味関心を知る実態把握とそれを生かした手だてから、個別の生活指導計画事例の検討を行った。

ウ 生活指導場面における求める主体的な姿の共有

各棟で協議し、事例対象者の主体的な姿を共有した。

エ 客観的評価の検討と充実に図る

研究会を通して主体的な姿を全体で確認・共有し、評価を検討した。

(2) 成果と課題

ア 成果

(ア) 実態把握へ客観的な評価を活用するため、適応行動評価(Vineland II)を試みたことで、寄宿舎生の見立てに無理が無いよう指導員間で協議する機会が増えた。

(イ) 適応行動評価(Vineland II)の強みと弱みと寄宿舎内の実態把握内容をすり合わせ、良さや関心の傾向を確認することができた。

(ウ) プランニングシートの利用により個別の生活指導計画作成時見立ての過程が明らかになり、指導員間の共有に活用できる。

イ 課題

(ア) よさや関心を生かすために、実態把握に項目を追加する必要がある。

(イ) 実態把握と棟共有に時間を要してしまい取り組みが遅れた。主体的な活動の共有に時間が

かかってしまった。

(ウ) プランニングシート作成時、重複した記述になることがあったため項目を見直す必要がある。

(エ) 主体的な姿の共有を図るため、プランニングシートに記載項目を設定する。

(オ) 適応行動評価 (Vineland II) を十分活用するまでに至らなかった。

4 今年度の研究推進について

昨年度の課題解決へ向けた取り組みとして、実態把握シートとプランニングシートの項目を見直し、改善を図る。また、より多くの実践事例を収集するため、事例数を各棟2事例に増やして取り組んでいく。研究を進めるにあたっては、PDCA サイクルを活用して棟協議を行い、寄宿舍研究会で各棟の事例を協議し、共有しながら進めていく。

(1) 内容と方法

ア 指導実践

(ア) 実態把握シートとプランニングシートを活用してよさを生かした個別の生活指導計画を作成し、一人一人に応じた指導の充実を図る。

(イ) 目的と具体的な手立て、評価を一体とした取り組みを行う。

(ウ) PDCAサイクルを活用した棟協議を行い、改善しながら進めて行く。

イ 実践報告

(ア) 寄宿舍研究会で各棟の実践事例について協議を行い、改善と共有を図る。

ウ 成果と課題のまとめ

(ア) 実態把握シートとプランニングシート、個別の生活指導計画の様式を見直し、改善したことの評価や、実践が寄宿舍生の主体的に学ぶ姿につながったかどうかの評価から、次年度に向けての成果と課題をまとめ、改善に向けた取り組みを検討する。

(2) 推進日程

4月	3日(水) 19日(金) 26日(金)	寄宿舍研究会① 寄宿舍研究会② 棟研究会①	昨年度の研究成果と課題の確認 今年度の研究の方向性確認、内容・進め方について協議と決定 事例対象者の決定
5月	30日(木) 31日(火)	全体研究会① 棟研究会②	全体研究及び各学部研究の内容、進め方について共通理解 対象事例についての指導内容と進め方の共有
7月	30日(火)	棟研究会③	対象事例の協議
9月	19日(木) 27日(金)	棟研究会④ 寄宿舍研究会③	対象事例の協議 各棟対象事例についての協議
10月	25日(金)	棟研究会⑤	対象事例の協議
11月	15日(金) 29日(金)	棟研究会⑥ 寄宿舍研究会④	対象事例の協議 対象事例についての協議及び研究の成果と課題、次年度に向けた進め方について協議
12月	25日(水)	全体研究会②	全体研究及び各学部の研究について中間報告と次年度の進め方についての協議

(3) 実践事例

単元名	時間になったら掃除場所に移動し、掃除を始める	
指導概要	概ね基本的な生活習慣は身につけているが、外部刺激に敏感であるため、それが妨げになって次への行動が止まってしまうことが多い。身につけている力を活かすため活動環境を整え、最小限の声がけで活動できるよう取り組んだ。	
主体的な学びのための手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりで活動できる場所を設定する。 ・作業項目は作業場所に掲示する。 ・掃除用具は活動場所に保管する。 ・終了時の挨拶は、他の当番と分担して行う。 	指導で見られた寄宿舎生の主体的な学びの姿 <ul style="list-style-type: none"> ・活動場所を脱衣場と設定したことで、周囲の「掃除の時間です」の声で、掃除場所に移動し作業にも丁寧に取り組むことができるようになった。 ・ひとりで作業する「鏡拭き・流し掃除」を担当とした。雑巾の保管場所を鏡の前にしたことで、スムーズに作業に入ることができるようになった。 ・自分の担当場所が終わった後に、まだ掃除が終わっていない浴室の掃除を手伝う様子も見られた。 ・「Aさんが今日の挨拶当番です」の声掛けで、終わりの挨拶を行うことが多いが、廊下で友だちの掃除が終わるまで待つことができるようになってきた。
成果及び改善点	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実態把握をとおして、Aさんの行動特性を指導員間で共有することができた。このことで、自主的な行動の妨げになっている事由を整理し、改善に向けた取り組みをすることができた。 <p>【改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員が声掛けをする回数は減ったが、完全に自主的な行動には至っていない。夕食後からの流れが途切れないような動線を考えたい。 ・宿泊日数が少ないため、継続した取組にならなかった。 	

(4) 成果と課題

ア 成果

(ア) 実態把握シートとプランニングシートの改善

- ・実態把握シートは項目を細分化し評価の欄を加えたことで、より具体的になり、プランニングシートは日常生活と社会生活に分けたことで、個別の生活指導計画を作成しやすくなった。(寄宿舎資料1)

(イ) 目的と具体的な手立て、評価を一体とした取り組み

- ・棟研究会で主体的に活動する姿を共有したことで、指導員間で目標の到達度を確認することができ、手立てや目標の改善につながった。

(ウ) PDCA サイクルを活用した棟研究会と寄宿舍研究会での改善と共有

- 取り組みの目標から評価までを一体として共有する際にプランニングシートが有効だった。
- 月に一度棟研究会をしたことで、実態把握や取り組みの経過を棟の指導員間で共有し手立ての改善につながった。

イ 課題

(ア) 実態把握シートとプランニングシートの改善

- 実態把握シートは、ページ数が多く見にくかった。
- プランニングシートは実態把握シートから転記する必要があり、手間がかかった。また、段階に分けた短期目標を記載する欄や、特記事項を記載する欄が必要だった。

(イ) 目的と具体的な手立て、評価を一体とした取り組み

- 評価の時期が遅れたことにより、改善した取り組みが遅れてしまうことがあった。

(ウ) PDCA サイクルを活用した棟研究会と寄宿舍研究会での改善と共有

- 事例数を4事例に増やしたことで、寄宿舍研究会ではそれぞれの棟の実践事例を共有するに留まり、改善に向けた協議をする時間を確保できなかった。

寄宿舎資料1

プランニングシート

	Aさん	高等部	2年生	17	男	
	障害名、疾病等	自閉症				
1	障害の状態、発達の状態、程度	・忘れ物が多く、失敗を悔やむ様子が少ない。周囲に助けを求めることせず、やり過ごそうとすることが多い。				
	興味、関心					
	寄宿舎生活でみられる長所、良さ					
	行動の課題					
2	本人の願い(もしくは保護者)	・忘れものを、しないようになりたい。				
3	健康保持	心理的な安定	環境の把握	人との関り	コミュニケーション	体の動き
4	長期目標					
	・ex:本人が寄宿舎生活に慣れることを希望していること、楽しく暮らしたいと願い、実態把握から集団参加の苦手さがみられることから、「予定の確認」を目標とした。					
5	短期目標(日常生活)			(社会生活)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・下校後の活動リストに沿って暮らす ・手順表をみながら入浴用意 ・下校後から就寝までの活動リストに沿って生活できる 			<ul style="list-style-type: none"> ・時間になったら、集会に参加できる ・集会の流れに沿った行動ができる。 ・集会の中で質問ができる 		
6	指導場面(日常生活)			(社会生活)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・下校後の着替え ・ ・ 			<ul style="list-style-type: none"> ・棟会 ・おぞら会係会 ・ 		
	指導内容(日常生活)			(社会生活)		
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 					
	評価のポイント(日常生活)			(社会生活)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 					